**●副教材**

**プログラム①**

**基本理念の理解（障害の社会モデルについて知る）**

■**『ユニバーサルデザイン2020行動計画』**（2017年2月20日関係閣僚会議決定）

**に基づくユニバーサルな社会づくりが進んでいます**

●障害の有無にかかわらず、女性も男性も、高齢者も若者も、すべての人がお互いの人権や尊厳を大切にし、支え合い、誰もが生き生きとした人生を享受することのできる**「共生社会」**を実現することを目指す。

●この「共生社会」は、さまざまな状況や状態の人々がすべて分け隔てなく包摂され、障害のある人もない人も、支え手側と受け手側に分かれることなく共に支え合い、多様な個人の能力が発揮されている活力ある社会である。

**■障害者をとりまく法整備の流れ**

2000年　「交通バリアフリー法」の施行（公共交通事業者に関わる法令）

2006年　「バリアフリー法」の施行（ハートビル法と交通バリアフリー法の一体化）

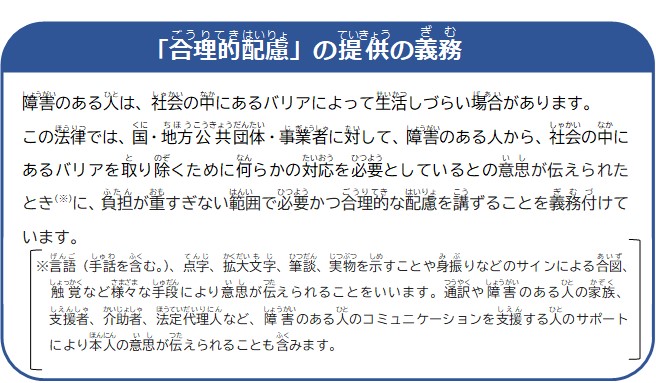
「障害者権利条約」が国連で採択（障害の社会モデルの考え方）

　　2011年　「障害者基本法」が改正

2014年　「障害者権利条約」を日本が締結

2016年　「障害者差別解消法」を施行（不当な差別的取扱いの禁止、合理的配慮の提供）

2018年　「バリアフリー法」を改正

2024年　「改正障害者差別解消法」を施行（合理的配慮の提供の義務化）

**■『障害の社会モデル』による合理的配慮の提供**

障害のある人に配慮した環境が作られていないために、障害のある人にとってのバリア（障害）が生じている。しかし、バリアを作った地域や事業者はこれを取り除いていく責任がある。これを**『障害の社会モデル』**という。

【障害の社会モデルの考え方の例】

例えば、建物の４階に行こうとしたとき、**障害のない人には、階段、エレベーター、エスカレーターなど様々な設備が作られ、配慮がされていて、当たり前に安全や利便性が提供されています**。

一方、障害のある人に対しては、どうでしょう？エレベーターがあれば障害のある人に十分に配慮されていると思っていませんか？

しかし、例えば、エレベーターでしか上の階に行けない車椅子使用者は、もしエレベーターが奥にあったり、エレベーター以外を使える人によって混雑して乗れないなどがあれば、時間がかかってしまいます。

障害のない人と同じように配慮されているとは言えません。

**誰もが同じように、安全で使いやすい環境を作るには、こうした知らず知らずに作られてきた不平等に気づく必要があります。大多数の人にとって問題がなければいいという発想がバリアを作り出してきたのです。このような社会モデルの考え方を身に付け、接遇の方法が変わってくれば、バリアを取り除くことにつながっていくのです。**

タクシーでは、バリアフリー整備が進み、ハード面でのユニバーサルな対応ができてきていますが、ハード面がままならない状況もまだある。しかし、こうしたバリアがある状況でも、**対話によって解決策を導き出す**ことが重要。

**■『心のバリアフリーの考え方』（ユニバーサルデザイン２０２０行動計画より）**

**①「障害の社会モデル」を理解すること**

**②障害のある人（及びその家族）への差別を行わない**

**③自分とは異なる条件を持つ多様な他者とのコミュニケーションをとる力を養い、すべての人が抱える困難や痛みを想像し、共感する力を培う**

**相手の立場に立って「対話」をすることで、ともにユニバーサルな社会を作っていく**



**●副教材**

**プログラム２－①**

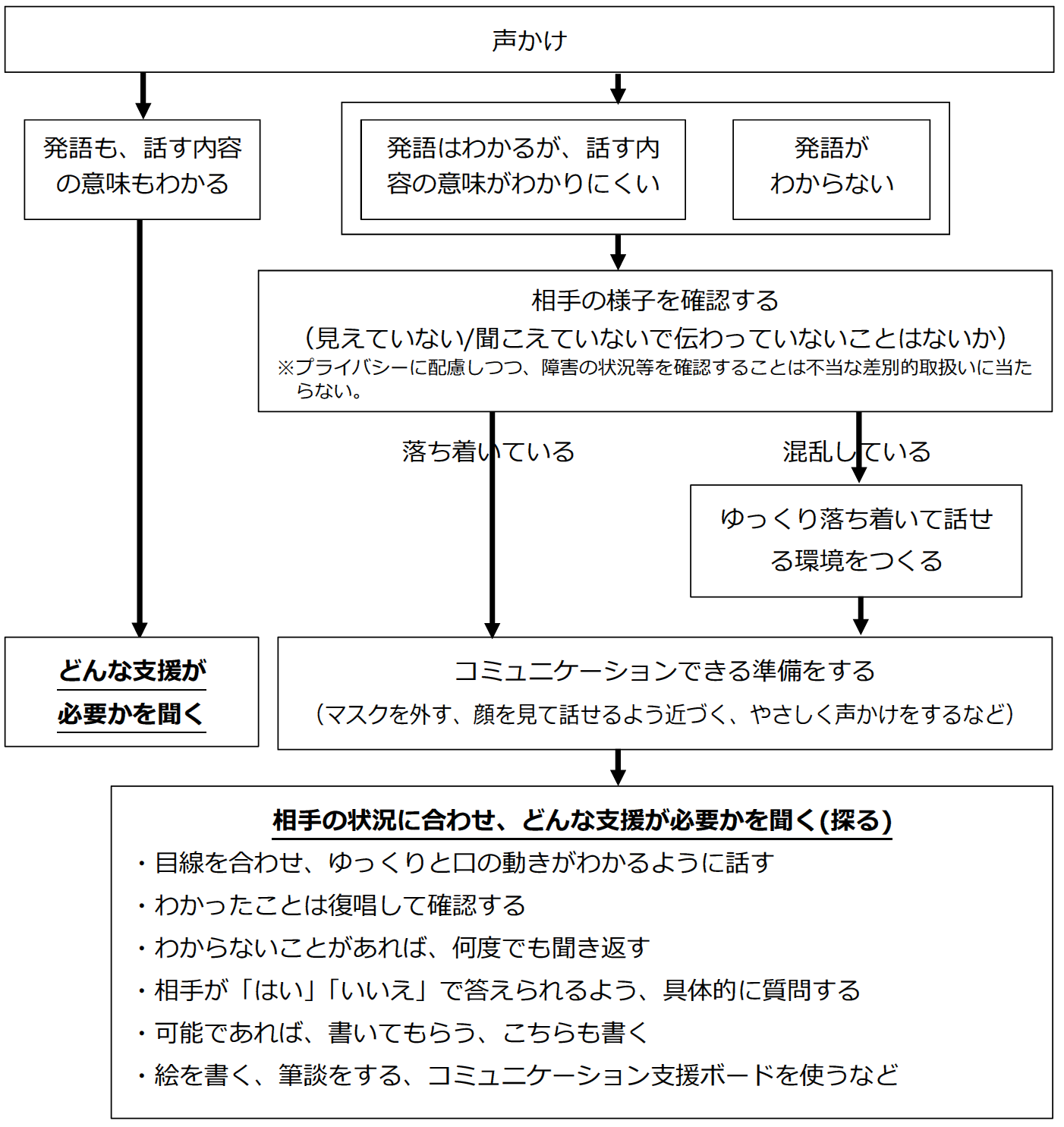
**障害の特性と基本の接遇方法**

**■多様性を理解し、どんな支援が必要かを見極めることが重要**

必要があれば、「何をお手伝いしますか？」と聞く

声かけをして確認してみる

障害に多様性があることはわかるが、見た目でわからない場合もある



**■高齢者**

**【特性】**

* + 視力・聴力・筋力など身体機能が低下
  + 移動やコミュニケーションに時間がかかる
  + 杖やシルバーカー、車椅子を利用している人もいる
  + 認知症の症状のある人もいる

**【困りごと】**

* + 長く歩けない
  + 素早く行動できない
  + つまづきやすい、転倒しやすい
  + 小さな字が見えにくい
  + 階段や車両への乗降が負担になる
  + 機械の操作が苦手
  + 温度感覚が鈍る

**【コミュニケーションの基本】**

* + 時間がかかる場合は急かさない
  + ペースを合わせたコミュニケーション

**【接遇のポイント】**

* + 誘導する場合はゆっくりペースを合わせて
  + 乗り降りが困難な様子の場合は、身体を支える、荷物を持つ

**■認知症の人**

**【特性】**

* + 症状はさまざまであり、主に認知機能（理解する力や判断する力）などが低下する
  + 保たれている機能もあるので、一律のイメージで対応してはいけない
  + 高齢者に多いが、若年性や軽度認知症の人もいる

**【困りごと】**

* + 目的地などを忘れてしまう
  + 行先はわかっても、乗り場がわからない
  + トイレや出口の場所がわからない
  + ****早口、いくつものことを一度に話すなどの場合、理解できないことがある
  + 同じことを何度も聞くなど、うまくコミュニケーションがとれない
  + ****機械の操作や時刻表の理解などが難しい　　　　　　　など

**【接遇のポイント】**

①特別視をせず、対応には「一呼吸」おいて

②まずは見守り、余裕をもって対応する

③声をかけても不安な様子の場合には、まずは落ち着いた対応を

④本人の視野に入り、目線を合わせて

⑤ゆっくり、簡潔に、はっきりとした話し方で

⑥相手の言葉に耳を傾けて、ゆっくり対応する

**■肢体不自由者・車椅子使用者・重症心身障害児者**

**【特性】**

* + 四肢、体幹が不自由で歩行や筆記が困難
  + 障害の部位は個人差がある
  + 車椅子、杖、義足などを使用
  + 原因（脳血管障害、脳性麻痺等）により困難さが異なる
  + 重度の肢体不自由と重度の知的障害を併せ持った人（子ども・成人）もいる
  + 介助犬を使用する人もいる

**【困りごと】**

* + 杖、義足などを使用している人は素早く移動する、階段・段差の上り下りが困難
  + 車椅子を使用している人は隙間、段差、溝を越えるのが困難
  + 手に麻痺がある場合は物を持つことが困難
  + 口に麻痺がある場合はうまく会話できない
  + 高いところに手が届かない
  + 床に落としたものがとれない
  + 車椅子での移動、車椅子からの移乗にはスペースが必要
  + 子ども用車椅子を使用していると、ベビーカーと誤認される

**【コミュニケーションの基本】**

* + 車椅子使用者の目線に合わせる
  + 声かけをするのはあくまで車椅子使用者本人に
  + 障害の程度によっては振動が伝わるだけで痛みを感じる人もいるため、「どのようにしたらよいか」をよく確認する

**【接遇のポイント】**

* + さまざまな車椅子があることを理解する



子ども用車椅子（※）

（バギー型車椅子）

（※）

姿勢を保てないなどの子どもが、背もたれの角度を変えられたり、姿勢を固定できたりする「バギー型」の子ども用車椅子を利用することがあります。

車体を折りたたむことは容易ではなく、ベビーカーと間違って、必要な介助を行わないことのないよう、注意することが重要です。

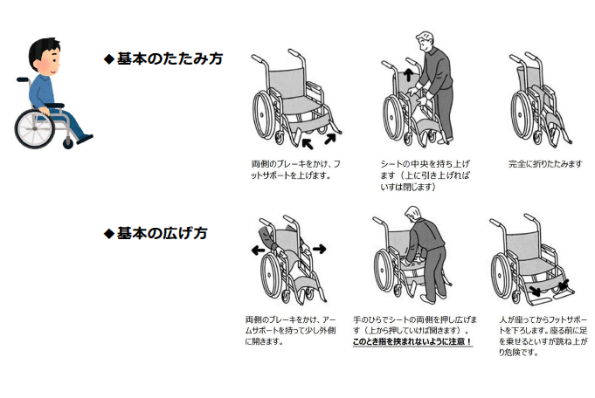
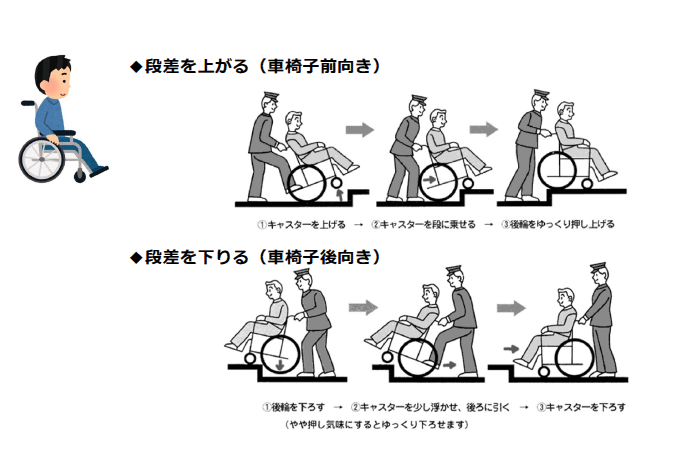
（子ども用車椅子のマークもあります。以下は一例です。）

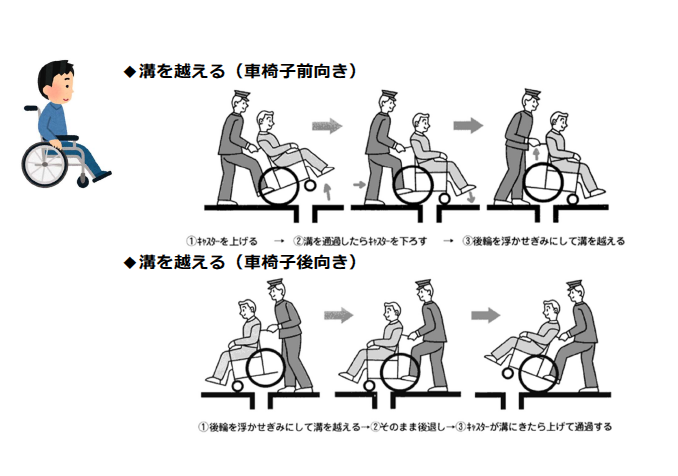
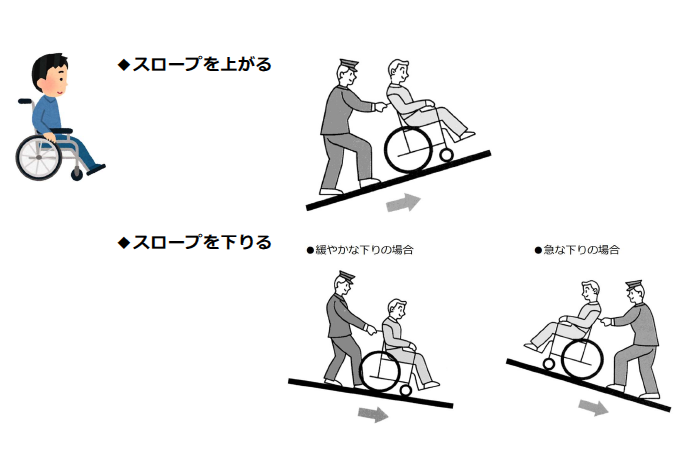


イラスト出典：交通エコロジー・モビリティ財団「交通サポートマネージャー研修テキスト」

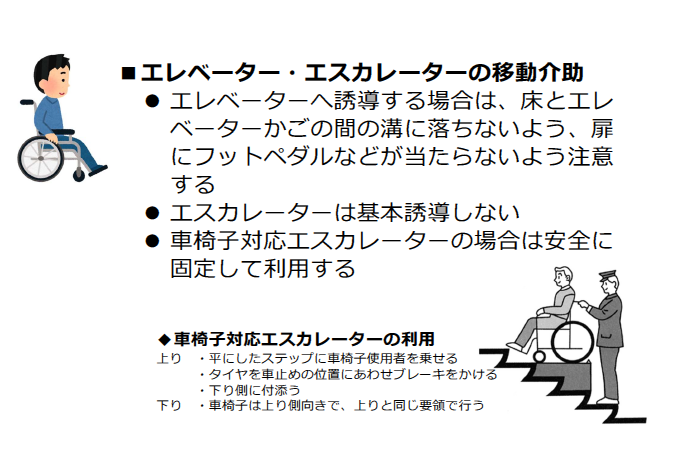
**■車椅子の移動介助**

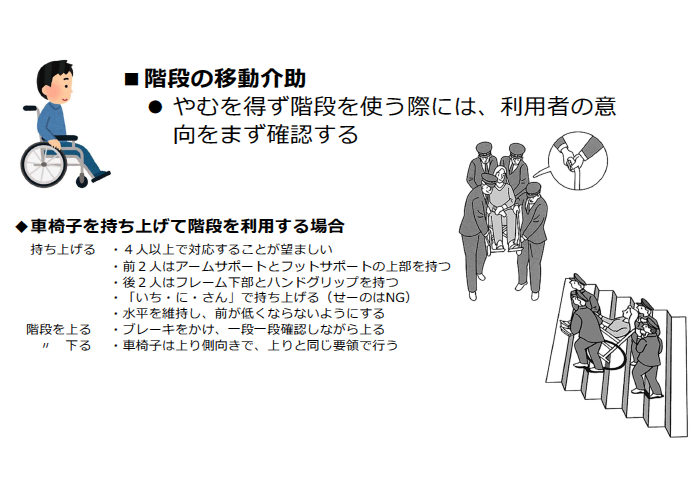
* + 押す、動作の際には、声をかける
  + 周囲に注意しながら進む
  + 少しでも車椅子から離れる場合にはブレーキをかける
  + 車椅子の基本的な取扱い方法を身に付ける



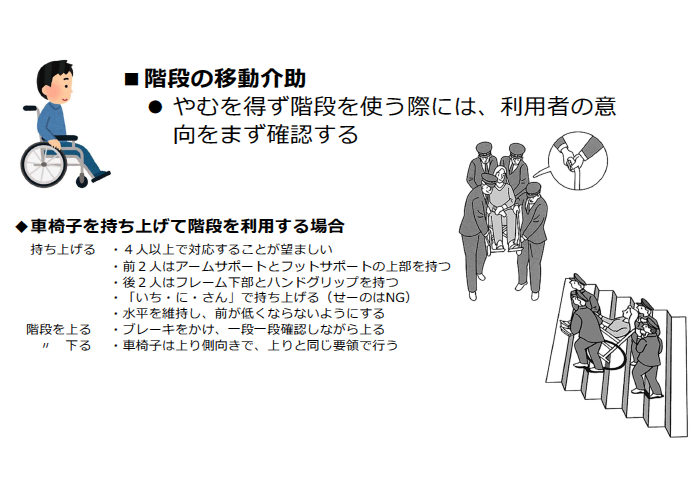


**■エレベーター・エスカレーターの移動介助**

* + エレベーターへ誘導する場合は、床とエレベーターかごの間の溝に落ちないよう、扉にフットペダルなどが当たらないよう注意する
  + エスカレーターは基本誘導しない
  + 車椅子対応エスカレーターの場合は安全に固定して利用する

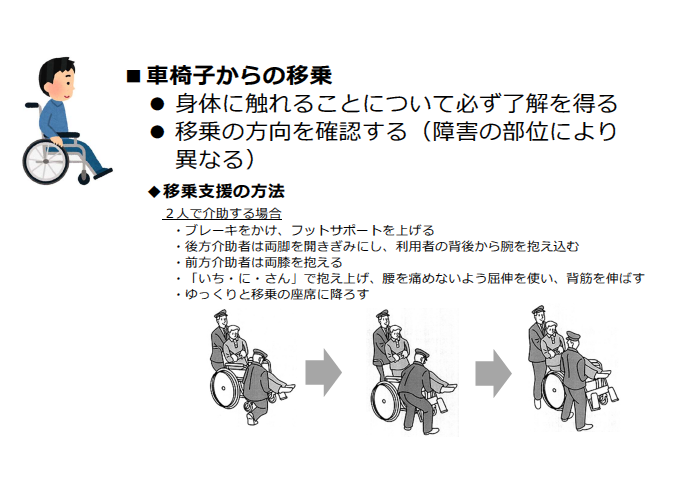
**■階段の移動介助**

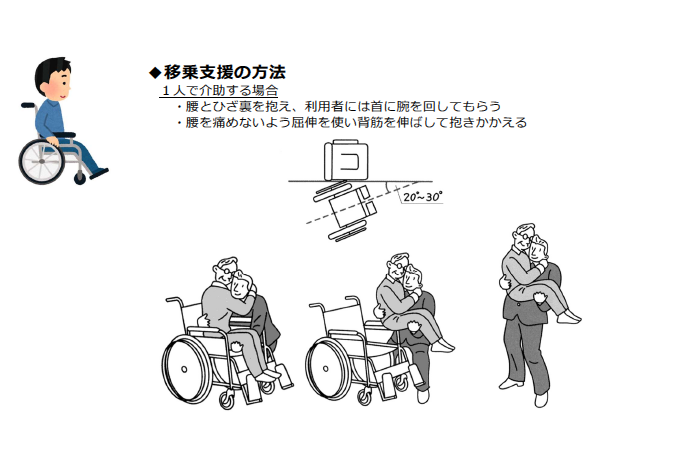
* + やむを得ず階段を使う際には、利用者の意向をまず確認する



イラスト出典：交通エコロジー・モビリティ財団「交通サポートマネージャー研修テキスト」

**■車椅子からの移乗**

* + 身体に触れることについて必ず了解を得る
  + 移乗の方向を確認する（障害の部位により異なる）



イラスト出典：交通エコロジー・モビリティ財団「交通サポートマネージャー研修テキスト」

**■肢体不自由の人への支援**

* + 車椅子を使用していなくても、段差や垂直の移動が困難な人がいる
  + 支援が必要かを確認して支援を行う

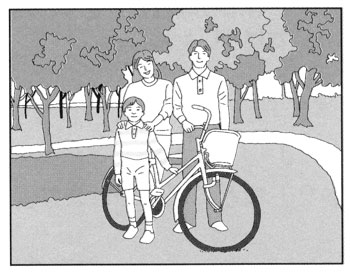
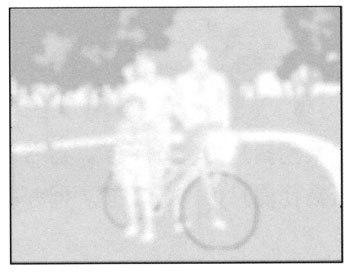
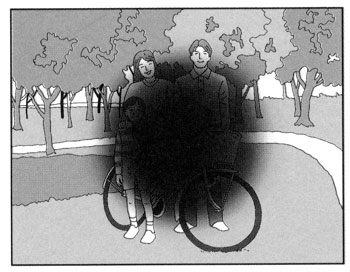
**■介助犬を使用している人への支援**

* + 介助犬は肢体不自由な人等の日常の手助けをする犬
  + 介助犬には声をかける、見つめる、触るなどをしない（仕事を阻害してしまう）
  + 車椅子用スペースと、介助犬のスペースを確保する

**■視覚障害者**

**【特性】**

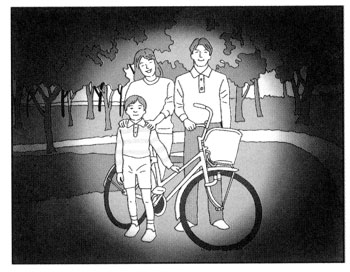
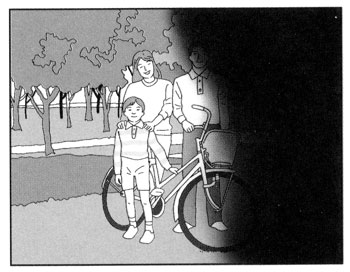
* + 大きく「全盲」と「弱視」に分かれる
  + 光を感じる/感じない、物の輪郭が判別できない、視野の一部が欠けている、色の判別が困難、暗いところでは見えにくい、明るいところでは見えにくいなどさまざま
  + 白杖を持っている、盲導犬を使用している、ガイドヘルパーと一緒に歩いている、白杖等を利用せずに１人で歩いているなど歩き方もさまざま
  + 白杖や盲導犬を使用していても、全盲ではなく弱視の人の場合がある
  + 盲導犬は使用している人の指示した方向に進む、障害物を避ける、止まって曲がり角や段差を教える。道を覚えているのではない。



中心暗転

弱視ではっきりと見えない

正常な視野



視野欠損

周辺視野狭窄

イラスト出典：交通エコロジー・モビリティ財団「交通サポートマネージャー研修テキスト」

**【困りごと】**

* + 階段からの転落、車・人・物などとの接触に危険・不安を感じている
  + 視覚的な情報が得にくい/得られないため、「音の情報」が頼り
  + 視覚障害者誘導用ブロックを頼りに歩いている場合、ブロック上に障害物があると危険
  + 無理に振り向かせてしまうと、方向がわからなくなる
  + 近くに人がいるかがわからないため、自ら助けを求めることが難しい

**【コミュニケーションの基本】**

* + 困った様子のときには、声をかけ、支援が必要かを確認する
  + 誘導する場合には、「どうしたらよいですか？」とどんな支援が必要かを確認する
  + 危険な場合には躊躇なく声をかける
  + 「１人で歩いているから支援はいらないだろう」、「白杖を持っているから一部始終支援が必要だろう」などの断定は禁物

**【接遇のポイント】**

* + いきなり触れたり、手を引いたりせず、何をすべきかを確かめる
  + 支援してほしいことはさまざま。どんな支援が必要かを確認する
  + 支援を断られた場合でも、安全を確認するために見守る

**■誘導の方法**

声かけをして誘導を希望された場合には、どのようにしたらよいかを確認して誘導する

●誘導の方法を確認

　　・「私の腕の位置はここです。ここにつかまっていただけばよろしいですか？」な

　　　ど誘導の方法を確認する

●情報をお伝えしながら誘導

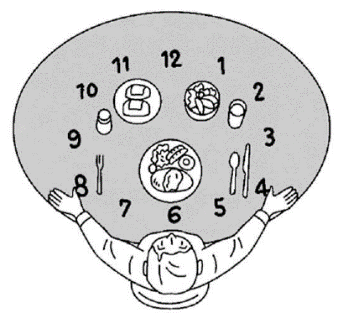
　　・「ここからまっすぐ進みます」「10cmくらいの段差があります」「ここで右に

　　　曲がります」など、方向や状況などの情報を都度お伝えしながら誘導する

●周囲への配慮

　　・周囲に人やものがある場合には、ぶつからないよう配慮し、避ける場合、「前方

　　　に柱があるので右に避けます」などと声をかける



**クロックポジション**

　位置関係を伝えるために、

時計の文字盤に見立て、

「３時の方向に改札があり

ます」などと説明する。

イラスト出典：交通エコロジー・モビリティ財団「交通サポートマネージャー研修テキスト」

**■盲導犬を使用している人への支援**

* + 盲導犬は視覚障害者の移動等を助けている
  + 盲導犬には声をかける、見つめる、触るなどをしない（仕事を阻害してしまう）
  + 盲導犬のスペースを優先席付近や壁際などに確保する

**■聴覚障害者・言語障害者**

**【特性】**

* + 外見では気づきにくい
  + 聞こえ方には個人差がある
  + 補聴器を使用して会話が可能な人もいるが、うまく聞き取れない人もいる
  + すべての人が手話を使えるわけではない
  + 表情や身振り手振り、口話、筆談、手話などの視覚情報が頼り
  + 聴導犬を使用している人もいる

**【困りごと】**

* + 外見ではわからないため、誤解や障害を理解されないことがある
  + 補聴器を使用していても、周囲の雑音などで聞き取れない場合がある
  + 相手の表情や口元が見えないとコミュニケーションがとりにくい
  + 声や音声情報だけでは、伝わらず、緊急時などは状況を理解できない場合がある

**【コミュニケーションの基本】**

* + 困った様子のときには、声をかけ、支援が必要かを確認する
  + コミュニケーションの際には、表情が見えるよう正面に立ち、はっきりとした口の動きを見せる
  + 身振り手振り、筆談（簡潔な文章）、簡単な手話で対応する
  + 聞き取れない場合は、あいまいにせず確認する

**【接遇のポイント】**

**■口話の方法**

* + 利用者の視界に入る（正面がよい）
  + 普通の声の大きさで
  + はっきり、少しゆっくり、文節を区切る
  + わかるまで丁寧にうかがう



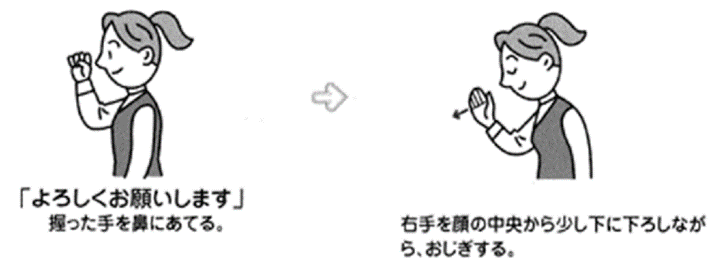
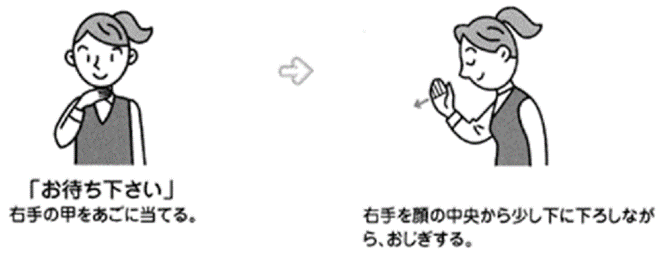
**■筆談の方法**

* + 筆談が苦手という人もいるため、筆談でよいかを確認する
  + 簡潔に短い文章で伝える（キーワードだけでもよい）
  + 文字が見えるようにして書く
  + 図なども適切に使う

イラスト出典：交通エコロジー・モビリティ財団「交通サポートマネージャー研修テキスト」

**■手話の方法**

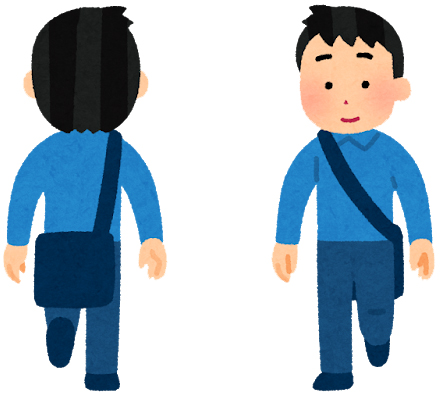
* + すべての聴覚障害者が手話を使えるわけではない（中途失聴者の多くは習得していない）
  + カンタンな手話を習得し、身振り手振りや口話と合わせて伝える



イラスト出典：交通エコロジー・モビリティ財団「交通サポートマネージャー研修テキスト」

**■聴導犬を使用している人への支援**

* + 聴導犬は聴覚障害者が聞こえない情報（後ろから来る車等の音、玄関チャイム、携帯電話の着信音、警報機の音など）を知らせている。
  + 聴導犬には声をかける、見つめる、触るなどをしない（仕事を阻害してしまう）
  + 聴導犬のスペースを優先席付近や壁際などに確保する

**■発達障害者・知的障害者・精神障害者**

**■**発達障害（脳機能の障害）

* 広汎性発達障害（自閉症、アスペルガー症候群）
* 注意欠陥多動性障害
* トゥレット症等のチック　など

**■**知的障害

* 概ね幼少期までに何らかの知的機能障害が生じた
* 複雑な判断や計算などに支援が必要

**■**精神障害（精神疾患）

* 統合失調症、気分障害（うつ病など）
* 脳の損傷による高次脳機能障害　　など

**【特性】**

　「コミュニケーションが苦手な傾向にある」

* + 外見では気づきにくい
  + 話の内容を理解できない人がいる
  + 自分の考えや気持ちをうまく伝えられない人がいる
  + 常識やルールを理解しにくい人がいる
  + 身体が勝手に動く、声や言葉が急に出る、変わったクセがあるなどの場合がある
  + 強いこだわりがある人がいる
  + 音や光が苦手な人がいる
  + ストレスに弱く、疲れやすい　　　など

**【困りごと】**

* + コミュニケーションが苦手な傾向にある
  + 困っていても自分から助けを求められない場合がある
  + 勝手に動きや声が出ることがコントロールできない場合がある
  + 不安を感じると体調不良となることがある
  + いつもとは違った状況になるとパニックを引き起こすことがある
  + 料金体系や機械の利用などが理解できない、しづらいなどの場合がある

**【接遇のポイント】**

**■コミュニケーションの方法**

* + やさしい表情とコトバで話しかける
  + ゆっくり、丁寧に、繰り返し対応する
  + 具体的で、簡潔に
  + 肯定的な表現で話す
  + 難しい単語や、言い回しは避ける
  + 視覚的な伝達手段の利用（イラストやピクトグラム）

**■パニックになったときの対応方法**

* + 刺激をしない
  + 不必要に注目を集めることをしない
  + 安全を確保しながら、落ち着くまで見守る
  + 近くに静かな場所があれば、そちらに誘導する

**■チック症状が出ている人への対応方法**

* + 音声チックや運動チックなどの症状に対して、不必要に注目が集まらないよう配慮する
  + 他のお客様とのトラブル時には、周囲の方への理解を求める声かけをする
  + 苦痛を訴えるなど、本人から支援を求められた際は、静かなところでの休憩を促す

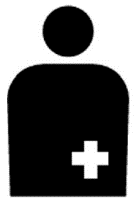
**■緊急連絡先を把握できる場合には**

* + ヘルプマークなど、緊急連絡先が記載されているものを携行している場合がある
  + 確認の上連絡し、状態を伝えて対応方法を把握する

**■内部障害者**

**【特性】**

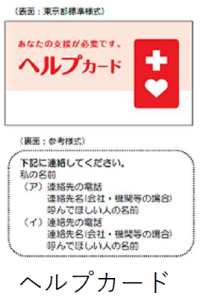
* + 外見では気づきにくい
  + 体調が変化しやすい、骨折しやすい、風邪などがうつりすい
  + 人工肛門、人口膀胱を使用している人（オストメイト）がいる
  + 酸素ボンベや人工呼吸器を携行している人がいる
  + ヘルプマークを持っている人がいる（外見では障害がわからないため）

**【困りごと】**

* + 疲れやすく、長時間立っていられない場合がある
  + 長い距離を歩く、階段の上り下りなどが困難
  + オストメイトに対応したトイレが必要



**【接遇のポイント】**

* + 体調がすぐれない様子があれば、声をかけ、休める場所などに誘導する
  + 医療器具の携行に配慮する（必要な支援をうかがう）
  + エスカレーターやエレベーターの位置を案内する
  + トイレの機能を把握しておき、適切な場所に案内する
  + ヘルプカードには対応方法や緊急連絡先が記載されている

**■その他（その他の心身の機能障害、妊産婦、ベビーカー使用者を含む乳幼児連れ、けが人など）**

**【特性】**

* + 慢性疾患は、生活習慣病やリウマチなど徐々に発病し、治療に長期間を要する疾患で、疲れやすい、移動しにくいなどの症状
  + 難病は、治療が難しく慢性の経過をたどる疾病で、症状は多様
  + 妊娠初期は急な体調の変化があり、外見からはわかりにくい
  + 妊娠後期は動くのが困難
  + ベビーカーを使用したり、乳幼児を抱きかかえていると移動が困難であり、子供が騒がないか周囲を気にする
  + 松葉杖などを使って移動する人がいる

**【困りごと】**

* + 疲れやすく、長時間立っていられない場合がある
  + 長い距離を歩く、階段の上り下りなどが困難
  + おなかの大きい妊婦は足元が見えにくく階段や段差が困難
  + 体調が急変しやすい

**【接遇のポイント】**

* + 体調がすぐれない様子があれば、声をかけ、休める場所などに誘導する
  + 待ち時間がある場合などは配慮が必要
  + ヘルプカードには対応方法や緊急連絡先が記載されている



**●副教材**

**プログラム2－②**

**接遇ガイドラインに基づく接遇方法**

**１.対応の際の配慮点**

* **障害特性、高齢者、障害者等に対する理解を高め、偏見を取り除く**
* **まずはコミュニケーションをとることにより、思い込みや不当な対応をなくす**
* **コミュニケーションにおいては、必要な情報保証を**
* **敬意を持った対応を**
* **必要な接遇は多様であることを前提に**
* **高齢や障害を理由に乗車を拒否してはならない**

**２.基本の接遇方法**

**■高齢者**

特性に配慮し、困っている様子のときは、**支援が必要かを確認**した上で**接遇対応**をします。



**高齢者の特性**

* 視力・聴力・筋力など身体機能が低下
* 移動やコミュニケーションに時間がかかる
* 杖やシルバーカー、車椅子を利用している人もいる
* 認知症の症状のある人もいる
* **支援の申し出があれば乗換経路を具体的に案内**

**乗り換え時**

* 時間に余裕を持った支援
* 安全確認、注意喚起
* 停車時に姿勢に注意
* 運賃はゆっくり、はっきり伝える
* 躓きやすいため確認
* 聞こえている、理解しているかを確認

**乗降時、運賃支払い、**

**車内**

**予約、事前問合せ**

**■認知症の人**

特性に配慮し、困っている様子のときは、**支援が必要かを確認**した上で**接遇対応**をします。

**認知症の人の特性**

* 症状はさまざまであり、主に認知機能（理解する力や判断する力）などが低下する
* 保たれている機能もあるので、一律のイメージで対応してはいけない
* 高齢者に多いが、若年性や軽度認知症の人もいる
* **説明時の支援**（電話や窓口で）

　・理解しているかを簡潔な言葉で確認

　・自己開示している人には、同伴者の有無、支援の要否を確認

**予約、事前問合せ**

**乗降時、運賃の支払い、**

**社内**

* **行先などが言えずに困っているとき**

　・やさしく、ゆっくり、簡潔に確認して支援

* **料金の支払いについて説明を求められたとき**

　・料金の所持、行先を確認した上で、支払いについて簡潔に説明

* **車内での危険な行動への対応**

　・利用者の安全の確保が第一。

　・その後、急き立てたり、責めたりせずシートベルトの着用などを促す。

* **緊急時における対応**

　・支援や避難誘導を行う際には、理解していない様子、不安な様子の場合には「大丈夫ですよ」と声をかけ、ゆっくり、簡潔に説明する。

* **乗換がわからずに困っている場合**

・乗り換えにはどこに行けばよいかわからない、混雑していて歩けなくなってしまったなどの場合がある

　・ゆっくりと落ち着かせて支援

**乗り換え時**

**■肢体不自由者・車椅子使用者・重症心身障害児者**

特性に配慮し、困っている様子のときは、**支援が必要かを確認**した上で**接遇対応**をします。



**肢体不自由者・車椅子使用者・重症心身障害児者の特性**

* 四肢、体幹が不自由で歩行や筆記が困難
* 障害の部位は個人差がある
* 車椅子、杖、義足などを使用
* 原因（脳血管障害、脳性麻痺等）により困難さが異なる
* 重度の肢体不自由と重度の知的障害を併せ持った人（子ども・成人）もいる
* 介助犬を使用する人もいる



* **一般タクシーの場合には、必要に応じた乗車支援と、車椅子のトランクへの収納**
* **福祉タクシー、ＵＤタクシーの場合は乗車方法、かかる時間などを説明して乗車を支援する**
* 割引適用は合理的な方法で確認
* **支援内容の確認**（車椅子等の補助具や介助犬の使用等について）
* **設備について説明**
* **車椅子等に対応しない場合には、支援の内容を説明、相談**

**乗り換え時**

**乗降時、運賃支払い、**

**車内**

**予約、事前問合せ**

* **支援の申し出があれば乗換経路を具体的に案内**

**■視覚障害者**

特性に配慮し、困っている様子のときは、**支援が必要かを確認**した上で**接遇対応**をします。



**視覚障害者の特性**

* 大きく「全盲」と「弱視」に分かれる
* 光を感じる/感じない、物の輪郭が判別できない、視野の一部が欠けている、色の判別が困難、暗いところでは見えにくい、明るいところでは見えにくいなどさまざま
* 白杖を持っている、盲導犬を使用している、ガイドヘルパーと一緒に歩いている、白杖等を利用せずに１人で歩いているなど歩き方もさまざま
* 白杖や盲導犬を使用していても、全盲ではなく弱視の人の場合がある
* 盲導犬は使用している人の指示した方向に進む、障害物を避ける、止まって曲がり角や段差を教える。道を覚えているのではない。
* **支援内容の確認**（盲導犬の使用等について）
* **迎車の場合の乗車位置確認**

**予約、事前問合せ**

**乗降時、運賃支払い、**

**車内**

* **白杖や盲導犬を使用した人を見かけた場合には降車して声をかける**
* **車の停止に気づいていない様子の場合、声かけをする**
* **乗車支援が必要な場合、屋根やドア、シートの位置を手を誘導して（断った上で）確認してもらう**
* **危険な場合は止まれ！と声かけ**
* **発車、停止、カーブ等は都度伝える**
* **目的地を詳細に確認**
* **到着の際には場所の詳細情報を説明**
* **運賃は読み上げ、正確な金銭授受を**
* **支援の申し出があれば乗換経路を具体的に案内**

**乗り換え時**

**■聴覚障害者・言語障害者**

特性に配慮し、困っている様子のときは、**支援が必要かを確認**した上で**接遇対応**をします。



**聴覚障害者・言語障害者の特性**

* 外見では気づきにくい
* 聞こえ方には個人差がある
* 補聴器を使用して会話が可能な人もいるが、うまく聞き取れない人もいる
* すべての人が手話を使えるわけではない
* 表情や身振り手振り、口話、筆談、手話などの視覚情報が頼り
* 聴導犬を使用している人もいる

**予約、事前問合せ**

**乗降時、運賃支払い、**

**車内**

**乗り換え時**

* **支援内容の確認**（聴導犬の使用等について）
* **聴こえない様子の場合、その人の視界に入り、口話がはっきり見えるように話す、または筆談をする**
* 問いかけがわからない様子の場合には、筆談で情報を伝える
* **運賃は、メーターや領収書を指し示し、必要に応じて筆談で対応**
* **支援の申し出があれば乗換経路を具体的に案内**

**■発達障害者・知的障害者・精神障害者**

特性に配慮し、困っている様子のときは、**支援が必要かを確認**した上で**接遇対応**をします。



**発達障害者・知的障害者・精神障害者の特性**

**コミュニケーションが苦手な傾向にある**

* 外見では気づきにくい
* 話の内容を理解できない人がいる
* 自分の考えや気持ちをうまく伝えられない人がいる
* 常識やルールを理解しにくい人がいる
* 身体が勝手に動く、声や言葉が急に出る、変わったクセがあるなどの場合がある
* 強いこだわりがある人がいる
* 音や光が苦手な人がいる、ストレスに弱く、疲れやすい　など
* **目的地の確認が理解できていない場合には、ゆっくり、はっきり、具体的に話す**
* パニックとなっている様子の場合にはゆっくり停車し、やさしく話しかけ落ち着かせることが重要
* **運賃は、メーターや領収書を示して読み上げる**
* 釣銭は金種ごとに確認して手渡す
* **支援内容の確認**
* **問い合わせに対してはゆっくり、はっきり、具体的に対応し、理解を確認**

**乗り換え時**

**乗降時、運賃支払い、**

**車内**

**予約、事前問合せ**

* **支援の申し出があれば乗換経路を具体的に案内**

**■内部障害者**

特性に配慮し、困っている様子のときは、**支援が必要かを確認**した上で**接遇対応**をします。

**発達障害者・知的障害者・精神障害者の特性**

* 外見では気づきにくい
* 体調が変化しやすい、骨折しやすい、風邪などがうつりすい
* 人工肛門、人口膀胱を使用している人（オストメイト）がいる
* 酸素ボンベや人工呼吸器を携行している人がいる
* ヘルプマークを持っている人がいる（外見では障害がわからないため）



**予約、事前問合せ**

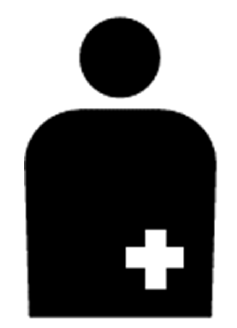
**乗降時、運賃支払い、**

**車内**

**乗り換え時**

* **支援内容の確認**
* **具合が悪い等の申し出があった場合、支援が必要かを確認し、どのような支援が必要かを聞く**
* **支援の申し出があれば乗換経路を具体的に案内**







ヘルプカード

ヘルプマーク

オストメイトや

オストメイト設備

を表すマーク

**■その他**

その他にも、その他の心身の機能障害、妊産婦、ベビーカー使用者を含む乳幼児連れ、けが人などに対して、**支援が必要かを確認**した上で**接遇対応**をします。

* **支援内容の確認**

**予約、事前問合せ**

**乗降時、運賃支払い、**

**車内**

**乗り換え時**

* **具合が悪い等の申し出があった場合、支援が必要かを確認し、どのような支援が必要かを聞く**
* **ベビーカー使用者には、お子様を使用者に抱いていただき、ベビーカーはトランクに収納する**
* 妊婦やけが人はバランスを崩しやすいため、相手の状況に応じて支援する
* **支援の申し出があれば乗換経路を具体的に案内**



※ベビーカーマーク（ベビーカー

　で安心して利用できる場所や設

　備を表している）

**■緊急時・災害時の対応について**

既に安全規定管理などによる対応をしていると思いますが、高齢者や障害者等に対する基本的な配慮事項としては、以下が必要です。

* 遅延・運転の見合わせなどの時には、必要な情報を乗客が得やすい手段で伝えることに努める
* 高齢者・障害者等が緊急事態に陥った時には、迅速かつ適切な対応を図ることに努める
* 地震、火災などの災害時には、乗客の安全を確認し、高齢者・障害者等が安全に避難できるよう誘導・介助を行う。適宜一般の乗客にも誘導・介助の協力を求める

※公共交通事業者に向けた『接遇ガイドライン』（平成30年５月　国土交通省）

<http://www.mlit.go.jp/common/001236569.pdf>